

令和3年度(2021年度)実施報告書(総説:鳥谷智文)

本年度は、「島根半島・宍道湖中海ジオパーク地域の歴史的景観と人々の暮らしに関する研究」と題して、鳥谷智文、杉谷真理子の2名により、主として近世～現代にかけての史・資料の分析を行ってきた。本年度の進捗状況は、昨年度と同様にコロナ禍の影響もあって、スムーズに進んだとは言い難い状況であった。本年度は、直接集まったの研究会は避け、外部のオンラインでの学会、論文執筆を中心に活動した。また、コロナ禍ではあるが、制限の中で松江市の地元の方に成果を報告するに留まった。

よって、本年度は、研究活動が制限された中で、フィールドワークなどにより新たな材料を発見し、分析、紹介する活動は、制限され、既存の研究材料、インターネットで得られる情報を分析、紹介する方向を模索することとなった。この際、インターネットで得られた情報は、情報源の問題も含め、吟味は慎重に行った。

近世・近代を担当する鳥谷は、近年史料の分析を進めている乃木公民館所蔵文書より、近世から近代にかけて乃木村の重要な産業であった製紙業について論文を執筆し、投稿した。また、乃木地区の人々に限定的であったが、成果報告を行っている。

現代においては、杉谷がジオパークを学ぶ際に、自然や景観において難解な印象を与える側面を解消する手段の一つとして、学校の校歌に注目し、郷土に関するイメージ形成を担うアイテムとしての有効性について先行研究を基軸に提示した。

研究状況の詳細は、以下に記載されている各人の実施報告書を閲覧していただきたい。コロナ禍の中で、当初の研究計画にあった聞き取り調査など地域の人々と密接に関わる活動などはできなかった。また、内部研究会も開催が叶わなかった。その中で、今回は研究代表者を中心に、オンライン研究会などでの報告、そして執筆、限定的な報告会などの模索を行った。

本年度の研究業績についても下記の各人による報告に記載している。但し、業績については、ジオパークに関連するものだけでなく、もっと大きな範囲での研究業績も含め記載している。また、業績には、従来記載していなかったが、インターネットを利用したオンライン配信についても記載した。参考にいただければ幸いである。

令和3年度（2021年度）実施報告書（各論：鳥谷智文分）

1. 研究進捗状況

昨年度から分析を進めている乃木公民館所蔵「旧乃木村役場文書」において、昨年度（2021. 2. 27）、島根史学会オンライン研究会で報告したが、その内容を再度吟味、加筆し、「第3回・第4回内国勸業博覧会関係史料からみた乃木村の産物—製紙業を中心に—」と題して、拙文が『松江市史研究』13号に掲載されることになり、世に問うこととなった。2022年2月に発刊の予定である。

また、上記史料から瑠璃細工について、日本技術史教育学会全国大会で「第3回内国勸業博覧会関係史料からみた乃木村の瑠璃細工」と題してオンライン報告を行った。乃木地区の方々には、コロナ禍であったので、限定的ではあるが、郷土の歴史教室において、内国勸業博覧会に出品された和紙、瑠璃について、実際に史料と一緒に読んでいく形式で、2回講座を行った。そして3月には、同様な形式で粳米などについて第3回目の講座を実施する予定である。

拙文執筆や現地での報告会でも考えさせられたが、地域を潤した伝統産業が、大正期以降斜陽化し、現在ではその存在をも知られなくなっており、地域を成り立たしめてきたものを今後どのように継承し、地域づくりに活かしていくのか、今後研究していくべき問題と考えている。

2. 業績

○論文・研究ノート・講演論文等：

- ・鳥谷智文：第3回内国勸業博覧会関係史料からみた乃木村の瑠璃細工、日本技術史教育学会2021年度全国大会（松江）研究発表論文集、pp. 5-8、2021. 11
- ・鳥谷智文：明治中期における田部家経営鈔の操業状況、鉄の技術と歴史研究フォーラム第26回公開研究発表会論文集、pp. 29-36、2021. 11
- ・第3回・第4回内国勸業博覧会関係史料からみた乃木村の産物—製紙業を中心に—、松江市史研究13号、2022. 2（刊行予定）
- ・鳥谷智文：明治20年代後半における田部家経営鈔の操業状況、菅谷たたら山内総合文化調査報告書、（公財）鉄の歴史村地域振興事業団、2022. 3（刊行予定）

○学会発表・講演等：

- ・鳥谷智文：鉄師田部家と吉田のまちなみ、2021年度雲南市たたらセミナー第3回ヘリテージツーリズムマネージャー養成講座（田部家、吉田町）、雲南市たたらプロジェクト会議、2021. 9. 9
- ・鳥谷智文：田部家の多角経営事業～湯村温泉と田部家の歴史～、2021年度雲南市たたらセミナー第4回ヘリテージツーリズムマネージャー養成講座（国民宿舎清嵐荘）、雲南市たたらプロジェクト会議、2021. 9. 28
- ・鳥谷智文：乃木公民館所蔵文書を読む①「乃木の製紙業その1—内国勸業博覧会関連史料から—」、郷土の歴史教室（乃木公民館）、2021. 10. 7
- ・第3回内国勸業博覧会関係史料からみた乃木村の瑠璃細工、日本技術史教育学会2021年度全国大会（松江工業高等専門学校図書館、オンライン）、2021. 11. 6

- ・鳥谷智文：明治中期における田部家経営鉦の操業状況、鉄の技術と歴史研究フォーラム第26回公開研究発表会（オンライン）、2021.11.13
- ・鳥谷智文：近世期安来における物流の動向、第6回中国地方たたら懇話会（（公財）絲原記念館）、2021.11.20
- ・鳥谷智文：八重滝鉦における水力送風技術の導入、鉄の歴史村フォーラム 2021（テクノアークしまね特別会議室、オンライン）、（公財）鉄の歴史村地域振興事業団、2021.12.4
- ・鳥谷智文：乃木公民館所蔵文書を読む②「乃木の瑠璃細工―内国勸業博覧会関連史料から―」、郷土の歴史教室（乃木公民館）、2022.2.3
- ・鳥谷智文：田儀櫻井家たたら経営に携わる人々と物流、2021年度出雲弥生の森博物館ギャラリー展Ⅳ「田儀櫻井家のたたら製鉄―その2国指定史跡越堂たたら跡―」関連講演会（出雲弥生の森博物館）、2022.2.23
- ・鳥谷智文：乃木公民館所蔵文書を読む③「乃木の粳米―内国勸業博覧会関連史料から―」、郷土の歴史教室（乃木公民館）、2022.3.3（予定）

○その他：

- ・鳥谷智文：日本技術史教育学会 2021年度全国大会（松江）開催案内、技術史教育第128号（ニュースレター）、日本技術史教育学会、p.2、2021.9.30
- ・鳥谷智文：日本技術史教育学会 2021年度全国大会（松江）開催報告・開催校企画（学生講演）報告、技術史教育第129号、日本技術史教育学会（ニュースレター）、pp.1-2、2022.1.31
- ・Youtube 配信：前掲鉄の歴史村フォーラム 2021、2021.12.4
- ・テレビ放映：前掲鉄の歴史村フォーラム 2021、雲南市・飯南町事務組合ケーブルテレビ、2022.1.29、19:00～、21:00～、2022.1.30、7:00～、13:00～、19:00～、21:00～ 各1時間

3. 学会表彰など

なし

令和3年度（2021年度）実施報告書（各論：杉谷真理子分）

1. 研究進捗状況

昨年度は島根半島・宍道湖中海ジオパーク内のジオサイトに関して考察を行うとともに、本ジオパークの活用的一端を担う観光（ジオツーリズム）について、県外居住者との関係について統計データをもとに今後の研究の道筋を検討した。

まず、本ジオパークのジオサイトについて、2019年度には景観の特徴と観光の利便性により次のような分類を行っていた（表1）。

通し番号	名称	自然	歴史的	(生活の場)	アクセス性
1	鷺浦の縦穴海食洞	○			
2	茶臼山		○		
3	日吉の切り通しと旧蛇行河道	○		○	
4	花仙山のメノウ脈	○	○		
5	玉造温泉	○	○	○	○
6	来待石の石切場	○	○		
7	鞍掛岩	○			
8	岩根寺のデイサイト節理	○			
9	立久恵峽	○			
10	八雲風穴	○			
11	鬼の腰掛岩	○			
12	小田海岸の貝化石	○			
13	大根島の湧水	○			
14	大根島の溶岩トンネル	○			
15	大根島のスコリア丘	○			
16	嵩山と和久羅山	○			
17	嫁ヶ島	○			
18	松江城とその石垣		○	○	○
19	松江層の潮汐堆積層	○			
20	津ノ森の弥生時代のシジミ	○			
21	湯の川温泉	○	○		
22	斐伊川	○	○	○	
23	神戸川	○			
24	浜山砂丘	○	○		
25	稲佐の浜	○	○		
26	園の長浜	○			
27	差海川河口の古砂丘	○			
28	沖の御前	○	○		
29	地蔵崎	○			
30	美保関の男神・女神	○			
31	青石畳通りと森山石		○	○	
32	美保関の海食崖	○			
33	法田海岸の波食棚	○			
34	宇井の古浦層	○			
35	惣津海岸と明島	○			
36	権現山洞窟		○	○	
37	入道礁		○		
38	千酌海岸の波食棚		○		
39	美保関隕石		○		
40	美保関古浦ヶ鼻の鉱物		○		
41	笠浦海岸のいろいろな火砕岩		○		
42	瀬崎のヒョウタン池		○		
43	瀬崎のドンド穴		○		
44	瀬崎の崩落火道		○		
45	築島の岩脈		○		
46	多古の七つ穴		○		○
47	佐波海岸の海底火山		○		
48	多古の石柱		○		
49	加賀の潜戸		○		○
50	桂島		○		○
51	須々海海岸の洗濯岩		○		
52	大ぞ島の車石		○		
53	古浦海岸の貝化石		○	○	
54	赤浦海岸		○	○	
55	立石の巨石		○	○	
56	大船山		○		
57	小伊津海岸の洗濯岩		○		
58	唯浦の直立層		○		
59	久多見石		○	○	
60	十六島鼻の海食崖		○		
61	猪目洞窟		○		
62	韓龜神社周辺の黒鉱鉱床		○	○	
63	弥山のごえんゴウロ		○		
64	大社湾岸		○		
65	大社断層の巨大な擦痕		○		
66	日御碕		○		○
67	礫島		○		

表1：景観の特徴と観光の利便性に関する分類表

ジオサイトをジオパークウェブサイトの記載事項によって「自然景観（自然）」、「人間との関わりをもつ歴史的景観（歴史的）」に区分し、「公共交通機関等での移動経路が明白であるかどうか（アクセス性）」判別したものである。加えて、「歴史的」なものとしては、「人々の生活との関係性が深いもの（生活の場）」に注目して細分化していた。今年度は、自然景観に関する考察を行った。

ジオパークに関する先行研究からは、行政主体であることの難しさや地域への浸透が十分でないなどの課題が散見されている。地域住民が、ジオパーク（ジオサイト）を身近なものとして捉え活用につなげるには、どのような方向からのアプローチが効果的であるか模索する必要がある。ジオパークを学ぼうと、自然やその景観は中心をなすものの、専門外の人々に学術的で難解な印象を与える側面をもつ。これを解消する手段として、普段より慣れ親しんでいるものを導入として活用できないか、検討の余地があると考えた。今年度は、学校において郷土に関するイメージ形成を担うものの一つとして校歌に注目した。

須田（2020）によると、大正期を境にして小学校の校歌の歌詞に地域に関わるものが登場するようになり、背景には郷土教育運動があったという。校歌制定の時代により歌詞に使用される景観要素に変容はあるものの、山や川などの自然景観に関しては普遍的なものとして捉えられ多く使用されることも指摘されている（汐見・笹谷、2001）。また、校歌に使用される自然景観を表わす語句には、学校所在地と対象物との距離が関係し、領域性があることも明らかになっている（汐見・笹谷、2001）。以上より、校歌から自然景観に関する歌詞を抽出することは、各地域で親しまれている自然景観を把握するうえで有用であると考えられる。矢部ほか（1995）は、校歌に謳われた景観要素の出現率によって地域景観イメージの類型化をはかっており、これによると、島根県松江市は「湖沼と歴史の地域景観イメージ」に分類されている。この研究では島根県他市についての調査は行われていないため、島根県内で行政区ごと校歌を分析することで、県内各地域において共有される自然景観の把握が可能であるとみられる。

今回は研究手法の提示のみとなったため、さらなる詳細な検討が必要である。

参考文献：

1. 汐見昌子・笹谷康之 2001. 小中学校校歌にみる近江の風景のイメージに関する研究. 環境システム研究論文集 Vol. 29. pp143-148
2. 須田珠生 2020. 近代日本の小学校にみる校歌の歌詞の変容と郷土との関わり. 音楽教育学第 49-2. pp13-24
3. 矢部恒彦・北原理雄・徳山郁芳 1995. 小学校校歌に謳われた全国の地域景観イメージに関する研究. 日本建築学会計画系論文集第 472 号. pp111-122

2. 業績

○学会発表

Mariko Sugitani, A Study on the Formation of Landscape and Action of Local Residents: A Case Study of Kitahoricho in Matsue, Japan, European Association for Japanese Studies, 25-28 Aug 2021